

生誕100年 “巨匠バーンスタインの芸術” 第1回  
指揮者/作曲家

プログラム

今年は、20世紀を代表する大指揮者で作曲家でもあるレナード・バーンスタインの生誕100年の記念の年に当たります。そこで今日は指揮者・作曲家としての両バーンスタインの芸術に迫る特集の第1回目です。

レナード・バーンスタインは1918年8月25日、アメリカ、マサチューセッツ州ローレンスに生まれました。ハーヴァード大学卒業後、カーティス音楽院でフリッツ・ライナーに師事。クーセヴィツキーやミトロプーロスにも指揮を学び、1943年のワルターの代役でニューヨーク・フィルを指揮してセンセーショナルなデビューを飾ります。1953年ミラノ・スカラ座にデビュー。作曲家としては1944年に交響曲第1番「エレミア」を自身の指揮で初演。1957年作曲を担当したミュージカル「ウェストサイド・ストーリー」が大ヒットし、作曲家として大成功を収めます。この作品は1961年名匠ロバート・ワイズ監督によって映画化、アカデミー賞10部門で受賞しますが、自身は映画のために作曲した作品ではないとの理由で無資格とされ、作曲賞は授与されませんでした。しかしこの映画がバーンスタインの音楽なしでは語れない事は周知の事実です。1958年～1969年までニューヨーク・フィルの音楽監督。1966年にはウィーン国立歌劇場にデビュー。1970年以降はウィーン・フィル、コンセルトヘボウ管、イスラエル・フィル、バイエルン放送響、フランス国立管等世界の名門オーケストラを指揮しました。またバーンスタインは教育にも情熱を注ぎ、ニューヨーク・フィル時代にはテレビ放送を通じて若者向けの音楽番組「ヤング・ピープルズ・コンサート」を自ら脚本、司会、指揮を務め大人気を博しました。1990年には札幌に、若手音楽家を育てるための教育音楽祭「パシフィック・ミュージック・フェスティバル」を設立しますが、この年にバーンスタインが急逝。その後はティルソン・トーマス、エッシェンバッハ、デュトア、ゲルギエフ等名指揮者達が引き継ぎ、現在では世界の重要な教育音楽祭のひとつとして定着しています。今日は最初で最後となったシューマンの貴重な演奏もお聴きいただきます。

(第2回に続く)

\*\*\*\*\*

**レナード・バーンスタイン (1918~1990):**

**ミュージカル“キャンティード”序曲**

ズービン・メータ指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団  
(1976.8.3 サルツブルク祝祭大劇場でのLive)

**ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン (1770~1827):**

**序曲“レオノーレ”第3番op.72a**

レナード・バーンスタイン指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団  
(1988.9.8 ルツェルン、クンストハウスでのLive)

**ロベルト・シューマン (1810~1856):**

**交響曲第2番ハ長調op.61 ~第1楽章、第3楽章から、第4楽章**

レナード・バーンスタイン指揮パシフィック・ミュージック・フェスティバル・オーケストラ  
(1990.7.3 札幌市民会館でのLive)

\*\*\* 休憩 \*\*\*

**レナード・バーンスタイン (1918~1990):**

**ミュージカル“ウェスト・サイド・ストーリー” ~**

- ① 導入 / ② マンボ ~ チャチャ (体育館でのダンス)  
③ マリア / ④ トウナイト / ⑤ ひとつの手、ひとつの心 / ⑥ フィナーレ  
キリ・テ・カナワ (ソプラノ=マリア) / ホセ・カレーラス (テノール=トニー)  
レナード・バーンスタイン指揮ブロードウェイ特別オーケストラ  
(1984 グラモフォン盤)

**グスタフ・マーラー (1860~1911):**

**交響曲第5番嬰ハ短調 ~第1楽章から、第4楽章、第5楽章**

レナード・バーンスタイン指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団  
(1987.9.10 ロンドン、ロイヤル・アルバートホールでのLive)